

2022年度 伊那西高等学校 学校自己評価

| | 重点方針 | 掲載頁 |
|----|-------------------|-----|
| 1. | 「建学の精神」の共有 | |
| 2. | 入学者の確保 | |
| 3. | 教育の質の向上 | |
| 4. | 学生・生徒・園児に対する支援の充実 | |
| 5. | 地域貢献・地域連携活動の推進 | |
| 6. | PTA・同窓会との協力 | |
| 7. | 進路支援の強化・充実 | |

注記

上記「重点方針」ならびに、以下の「重点方針」に基づく「事業目標」及び「評価指標」は、高松学園中長期的計画を示したものであるため、原則としてそのままの記載となっている。

学校運営全般に関して

コロナ禍の終息が見えない中、今年度も臨機応変の学校運営が必要になってくると考えられる。

その中であってであるが、できるだけ、従来の学校運営、行事の内容、クラブ活動のあり方に近づけた活動ができるように努力したい。

そこで心配されるのは、ここ数年間のいわばブランクによって、教員並びに生徒が従前のあり方を知らない、あるいは忘れてしまっていることによる弊害である。一方、コロナ禍によって、新しい方式が今後のあり方としてふさわしいと思われるものもある。両者を睨みながら、今後のあり方を創出していきたい。

また、近年ますます困難になってきている生徒募集については、本校の良さをアピールし、一人でも多くの生徒を迎え入れる努力していきたい。

加えて、転退学者を減らすため、オンライン授業の利用や、教育相談の充実に力を入れていきたい。

学校運営全般にわたっての反省並びに来年度に向けて

コロナ禍の影響は、相変わらずではあったが、その中において、以前のあり方でできるだけ近づけていこうという努力は行ってきた。特に、行事については、一定程度の取り戻しはできてきたように思う。

特に、文化祭（西高祭）においては、生徒並びに教職員の努力と工夫により、例年通りとは決して言えないものの、保護者の来校をいただきながら、生徒が思い出に残る時間が得られた。クラスマッチ、合唱コンクール、芸術鑑賞といったものについても同様である。ただその一方、修学旅行の目的地変更や強歩大会の中止といったものもあり、思いを残した部分も多い。

クラブ活動についても、次第に保護者や教職員、生徒の応援、鑑賞も可能となってきたものの、まだまだ制限が大きい中であつた。ただ、その中においても、生徒たちは、十二分な活動をしてくれたものと評価している。

通常为学校活動、学習活動においては、オンラインの有効利用を含め、コロナ禍がかえって功を奏したと言える部分もあつた。今後、オンラインの授業やそれに類した取り組みの機会は増えてくだろうと予想される。このような変化は、危うさや不十分さは感じるものの、メリットとなるであろう要素も感じられる。その両面を鑑みながら、今後の学校活動に生かしていく方法を模索しないとしない。

生徒募集については、結果として、大変厳しいものとなった。背景としては、少子化や学区内の募集定員の大きさなどがあることは確かだが、その中であつても、本校

の立ち位置や特色を十分にアピールできなかったという面もあるはずである。その要素を洗い出し、本校の魅力を発出していくと同時に、現在の中学生並びに保護者のニーズをくみ取り、それに基づいた「新しい伊那西」を創出していきたい。

| | |
|--------|---|
| 【重点方針】 | 1. 「建学の精神」の共有 |
| 【事業目標】 | 宗教行事ならびに「仏教」（学校設定教科）の意義を再確認し、本校が存在する意味を明確にする。 |
| 【評価指標】 | 教員の研修への取り組み状況／生徒が何を学び何を考えたか |

| 施策名 | 内 容 | 関連部局 (担当部局) |
|----------------|--|----------------|
| 年間行事における意義の再構築 | ①宗教行事（釈尊降誕会・報恩講）の本校における位置を確認し、生徒の主体的取り組みを構築する。 (評価指標) 終了後、生徒が何を学び何を考えたか。欠席者を0にする。 | 宗教科 HR |
| 学年行事における意義の再構築 | ①「東本願寺研修」（1年生）を通じ、本校生徒として、どのような高校生活を送るべきかを自覚する。 (評価指標) 終了後、生徒が何を学び何を考えたか。欠席者を0にする。 | 宗教科 HR |
| 授業による意義の再構築 | ①「仏教」の授業を通じて、毎日の生活を振り返り、人としていかに生きるべきかを考えながら生活できる人になるように努力する。 (評価指標) 生徒が毎日の生活とどう結びつけ、自分の生活にどんな変化をもたらしたか。 | 宗教科 HR |
| 教員研修 | ①初任研修、宗教研修、宗教担当者研修への参加 (評価指標) 研修報告書の提出 | 管理職 宗教科 |

今年度の主なる留意点

1. 生徒が、宗教行事を通して、自己を見つめ、自己のあり方について考えられるようにする。
 - (1) 積極的な参加ができたか。
 - (2) 自己を見つめることができたか。
2. 教員が、宗教行事を通して、生徒の成長を確認し、成長のサポートができるようにする。
 - (1) 宗教行事の意味をきちんと伝え、生徒の積極的な参加に寄与できたか。
3. 学校設定教科（宗教）と総合的な探究の時間との連携を高め、生徒が探究活動を通して、建学の精神を具現化できるように方向付ける。

反省並びに来年度に向けて

昨年度、1年生が実施できなかった「東本願寺研修」を、2年生になった今年度、修学旅行との組合せというかたちではあったが、実施できた点は良かった。
 その他の宗教行事も、従前の形式とは若干の異なりはあるものの、その目的の大筋は達成できたものとする。
 コロナ禍に伴う人間同士の疎外感の拡大、ロシアとウクライナの戦争、格差社会など、社会環境は困難を深めている。その中で、浄土真宗の教え、仏教の教えに基づく、本校の「人教育」は、ますます大切なものとなっていくはずである。
 宗教行事、仏教の授業などはもちろんのことであるが、日常生活の中においても、本校で学ぶ意味を問い続けていくことが大切であるとより強く感じている。

| | |
|--------|---|
| 【事業目標】 | あたりまえなことをあたりまえにできる生活を徹底し、本校の原点を研ぎ澄ませます。 |
| 【評価指標】 | あいさつ、清掃、身だしなみの3要素において、伝統のスタイルを維持できているか。 |

| 施策名 | 内 容 | 関連部局 (担当部局) |
|----------|---|----------------|
| 挨拶の励行 | ①「あいさつ」の励行を徹底し、互いに気持ちの良い生活ができるようにする。 (評価指標) 校内外の人に対して、気持ちの良い(形式的でない)挨拶ができているか。 | 生徒指導 HR |
| 清掃の徹底 | ①清掃活動を通して、奉仕の精神を磨くとともに、丁寧な生活者としての基盤を養う。 (評価指標) 清掃開始時間に全員が清掃場所にいるか。時間いっぱい清掃ができているか。計画的な清掃が行えているか。 | 美化委員会 HR |
| 身だしなみの端正 | ①TPOに応じた服装、所作、表現の大切さを知り、円滑な人間関係を構築できるようにする。 (評価指標) 身だしなみを注意される生徒がいない。 | 生徒指導 HR |

| |
|---|
| 今年度の主なる留意点 |
| <p>1. 「縛られ感」や「やらされ感」を持たずに、生徒が実践できるようにする。</p> <p>(1) 生徒が、「理由」を理解した上で、実践しているか。</p> <p>(2) 生徒が、自分のそのような姿に誇りを持っているか。</p> <p>(3) 家庭、地域などの場面においても、同様の実践が行えているか。</p> <p>(4) 教員の温度差をなくし、同一の価値観と視点で指導に当たっているか。</p> |

| |
|---|
| <p>反省並びに来年度に向けて</p> <p>あいさつ、清掃、身だしなみの3点については、概ね良好に実践できていたと考える。教員も適切な指導をしていたという見方をしているが、教員間では温度差もあるという指摘もある。</p> <p>あいさつ、清掃、身だしなみといった要素は、もちろん、どのような現れ方(形式)が実践できているかということも大切であるが、それに向けて生徒たちがどのような思いを持っているか、つまりどれだけ大切に考えているかが大切であると考えている。大きな声であいさつすることが大切ではなく、心のこもったあいさつが大切であり、制服を着ているという自分に誇りと自信を持つことが大切であるということである。このような共通理解を、教員間で再確認し、生徒を見守っていくと姿勢を模索したい。</p> |
|---|

| | |
|--------|--|
| 【重点方針】 | 2. 入学者の確保 |
| 【事業目標】 | 入学者を安定的に確保し、活力と経済力のある学校作りを行う |
| 【評価指標】 | 旧第8通学区から160人以上の生徒が確保できているか。 旧8通学区以外から10名以上の生徒が確保できているか。 |

| 施策名 | 内 容 | 関連部局 (担当部局) |
|-----------|--|---------------------|
| 本校の特色の明確化 | ①宗教教育、女性教育という本校の特徴を明確にし、その良さを発信する。 (評価指標) HPなどで学校方針が適切に発信できているか。 | 管理職 生徒募集 広報 |
| 入試方法の改定 | ①地域の公立校、周辺の私立高校の入試方法を考慮し、適切で効果的な入試方法を設定する。 (評価指標) 入試方法の改定が行われたか。 | 管理職 学校改革 生徒募集 |
| コース制の見直し | ①本校の特徴が明確に示せるコースを設定し、それぞれのコースの目標を可視化するとともに、内容の充実を図る。 (評価指標) 令和3年度入試より新しいコース制による入試が実施されるか。 | 管理職 学校改革 生徒募集 |
| 通学方法の見直し | ①遠方からの通学、交通至難地域からの通学に備え、スクールバスを充実させる。 (評価指標) | 管理職 学校改革 |
| 施設設備の充実 | ①生徒の学習活動やクラブ活動がより効果的かつ安全に行えるような施設設備を整える。 (評価指標) 調理室のリフォーム、自習室の確保、図書館の整備、クラブ活動施設の充実ができたか。 | 管理職 学校改革 |

今年度の主な留意点

1. 昨年度(令和3年度)入試を検証し、今年度入試のあり方を策定する。
(1) 近隣の公立・私立学校の入試方法に照らして、効果的な入試方法となっているか。
2. 本校の「良さ」を明確にし、それが可視化できるようなコース制を導入する。
(1) 本校の「良さ」を言語化できているか。
(2) 地域、時代のニーズに合わせたコース制が模索できているか。
3. 高等学校等就学支援金の充実に伴い、公私の授業料格差が縮まったことを周知する。
4. 「募集委員会」を中心に、広報、啓蒙活動を行う。
5. 第I期推薦入試の時期を早めることにより、入学者の早期確保を図る。

反省並びに来年度に向けて

結論的には、結果を得られないものに終わってしまった。
生徒募集委員会を中心に、1年間にわたって、広報、啓蒙活動を行ってきたが、それが受験生やその保護者、あるいは中学校の先生方に届いていなかったと考えざるを得ない。
第I期の推薦入試の時期を早めるという策も、結果として効果が得られなかった。一日体験入学への参加者、学校説明会等への参加者は、例年を上回る数ではあった。また、併願入試の受験者も昨年度を上回る数であったが、結果として入学生の確保ができなかったという点について、中学卒業生数に対する募集定員の数といった点を、乗り越えた方策を立てなければならない。

不易流行の不易の部分は当然大切にもの、流行の部分で、本校ができることは何か、それをかたちに表すようにしたい。

| | |
|--------|---|
| 【重点方針】 | 3. 教育の質の向上 |
| 【事業目標】 | 授業満足度を高め、「わかった」「できた」という授業にする。 |
| 【評価指標】 | 基礎学力模試（進路マップ）の評価において、80%がC以上の評価を受けるようになる。 |

| 施策名 | 内 容 | 関連部局 (担当部局) |
|------------|--|----------------|
| 新しい教育方法の促進 | ① ICT教育を推進し、探求型授業の構築に努める。 (評価指標) すべての教員が、ICTを積極的に活用し、探求型授業の促進を行ったか。 | 学習 |
| | ② アクティブラーニングを推進し、新しい入試方法に対応できる力を養成する。 (評価指標) すべての教員が、アクティブラーニングの方法による授業を行い、参加型授業の促進を行ったか。 | 学習 |
| 授業満足度の向上 | ① 授業評価アンケートを実施し、授業改善に努める。 (評価指標) 授業アンケートを年2回実施し、各自の授業にどのように反映できたか。 | 学習 |
| | ② ユニバーサルデザインの精神を取り入れた教育を実施し、すべての生徒にとって分かりやすく力の伸長が望める授業を実施する。 (評価指標) どんな工夫ができたか。 | 学習 |
| 教員研修の積極的実施 | ① 教科教育方法における最新情報を知り、技術的向上を図る。 (評価指標) 教科会の充実。入試問題の作成。 | 教科 |
| | ② 基礎教養の充実を図り、広く生徒の啓蒙に努める。 (評価指標) 平成32年度までに、自己研修制度の作成 | 管理職 |
| | ③ 互いの授業を見学し合うことで、切磋琢磨に努める。 (評価指標) 年間5時間以上の授業見学。 | 学習 |

今年度の主なる留意点

- 生徒の学習に対する意識を高め、基礎力の向上に努める。
 - 通常の授業が計画通りかつ効果的に行われているか。
 - 日常的に学習習慣が身につく、家庭学習が恒常的に行われているか。
 - 基礎力テスト、模擬試験における評価が高まっているか。
- 新しい指導法を積極的に取り入れ、新しい「評価」に対応できるように努める。
 - 探究型授業の研究および実践が効果的に行われたか。
 - 教員が主体的に研修に参加し、自己の研鑽に努めたか。
- 英語教育の充実
 - オンライン英会話などの導入により、「聞く」「話す」の充実ができたか。
- 新学習指導要領に基づく授業を効果的に実践することができたか。
 - 新評価方法を加えたシラバスの作成とその検証が行われたか。
 - 新学習指導要領の目的や期待される効果に相応した授業展開がなされたか。
- ICT教育、ALを充実させ、本校の特徴の一つとして発信する。

- (1) 1・2年生のタブレット端末にどれだけの教育効果が得られたか。
 (2) ICTを活用し、課外学習や家庭学習の充実が図れたか。
 (3) 遠隔授業に対してのガイドラインに基づき適切かつ効果的な授業が実施できたか。

反省並びに来年度に向けて

「総合的な探究の時間」も教員の工夫により、次第にその深度が増してきた。生徒たちが積極的に動き、考えるという態勢も作られてきて、具体的な「かたち」に仕上げることができるようになってきた。ますますの発展が期待される。

ICT、ALについても、教員の努力と工夫により、方法論が確立しつつあり、学習効果に反映されていると見ている。

また、コロナ禍により急務となったオンライン授業であるが、天候の急変、怪我や病気による登校困難などといった面にも適用されるというメリットを感じることもあった。オンラインの危うさや不十分さを認識した上で、今後も上手な活用法を取り入れていきたい。

今年度、ニュージーランド短期留学を実施することができた。参加した生徒は11名、実質11日間という短期間であったが、現地の授業に参加したり、ホームステイをしホストファミリーとの触れあいがあったりという充実した時間であった。来年度以降も同様の取り組みを行っていくと同時に、さらに発展した取り組みとしたい。

| | |
|--------|--|
| 【重点方針】 | 4. 生徒に対する支援の充実 |
| 【事業目標】 | 生活満足度を高め、「楽しい」「成長した」が実感できる校内生活にする。 |
| 【評価指標】 | 入学生の95%以上の生徒を卒業させる。 95%以上の生徒がクラブに所属し、クラブ目標に添って活動できているか。 |

| 施策名 | 内 容 | 関連部局 (担当部局) |
|-----------------|---|----------------|
| 教育相談にかかる支援の充実 | ①スクールカウンセラーによる専門的なアドバイスに基づく助言・援助を充実させる。 (評価指標) SCが継続的に配置されているか。 | 生徒指導 特別支援 |
| | ②教員同士、あるいは家庭との連携を密に取り、皆で一人の生徒を見守り、育てるという体制を整える。 (評価指標) 転退学者5%以内とする。 | 生徒指導 学年会 |
| クラブ活動及び生徒会活動の充実 | ①クラブ加入率を高め、生徒の達成感とさらなる目標設定の支援を行う。 (評価指標) クラブ加入率95%以上とする。 クラブ活動における成果が、生徒の満足するものであるか。 | 学年会 課外活動 |
| | ②生徒会活動の自主性を高め、生徒の達成感とさらなる目標達成の支援を行う。 (評価指標) 生徒会主催行事が、生徒の満足するものであるか。 従来の活動に加えて、どんな活動ができたか。 | 生徒会 |
| | ②施設、設備を整え、安全で効果的な活動ができるようにする。 (評価指標) クラブ活動場所が適切に確保されているか。 クラブ活動資金が適切に準備執行されているか。 | 管理職 課外活動 |

| |
|--|
| 今年度の主なる留意点 |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 担任、学年主任、係が連携して、生徒の日常を観察理解し、情報を共有する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学年会が適切に運営されているか。 (2) 三者の相互連携が図れているか。 2. クラブ活動が「活動の指針」に基づき、効果的かつ教育効果が高まる活動を行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「活動の指針」が顧問、生徒、保護者の間で共有され、実践できているか。 (2) 生徒が活動を通して、自己発見と自己研鑽ができてきているか。 (3) 教員ならびに適切な「休み」を取り、活動が行われているか。 3. 行事のあり方を従前に近づけることができたか。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒が積極的に行事に取り組むことができたか。 (2) 教員が、生徒とともに行事に取り組む、本校のあり方を大切にできたか。 4. SCと連携し、適切かつ効果的な教育相談ができたか。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒並びに家庭との相互理解を深めることができたか。 (2) 教員のスキルが高められたか。 (3) 転退学者の減少(5%以内)が実現できたか。 |

| |
|---|
| 反省並びに来年度へ向けて |
| <p>今年度、例年以上の転退学者が出てしまったことを大変残念に感じている。</p> <p>その背景としては、例年に比べて、中学校時代からの不登校生徒が多かったこと、コロナ禍が原因とされる生徒たちの精神的な不安定さ、「学校」に対する生徒や保護者の意識の変化などが考えられる。</p> <p>飯田女子短期大学の協力によるSCの活用も行っているが、問題が多岐にわたり、学校現場だけでは対応できないケースも増えている。</p> <p>家庭の問題にまで踏み込み、それを福祉につないでいくといった取り組みの大切も感じているが、現実的には困難である。その中であって、私たちが直接向き合うことのできる生徒との接点をより大切に、しかも深くし、生徒たちの安心できる居場所としての学校であるように努めたい。</p> <p>クラブ活動については、それぞれのクラブが、到達目標に向けて積極的な活動を行い、十二分な成果が得られたものと見ている。ただ、地域との協働といった面については、コロナ禍の影響を強く受けてしまった。来年度は、さまざまな点において緩和が予想されるため、従前に近づけた活動に戻したい。</p> |

| | |
|--------|---|
| 【重点方針】 | 5. 地域貢献・地域連携活動の推進 |
| 【事業目標】 | 地域と恒常的かつ効果的に連携が整い、生徒の成長に寄与させる。 |
| 【評価指標】 | 生徒が地域の一員としての自覚を高めているか。 地域の本校理解が進んでいるか。 |

| 施策名 | 内 容 | 関連部局 (担当部局) |
|---------------|--|----------------|
| 地域との恒常的な連携の構築 | ①地域の活動に加わり、生徒の社会性の向上を図る。 (評価指標) 生徒の関わり状況と生徒が何を学んだか。 | 課外活動 |
| | ②本校の諸活動に地域の協力をいただき、本校に対する理解度を高める。 (評価指標) 地域からどれだけの声かけをいただいたか。 | 課外活動 |

| |
|--|
| 今年度の主なる留意点 |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域との連携を深め、地域に根ざした学校作りをする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒が地域との関わりを通してどのような学びを得たか。 2. 課外活動の「成果」「実績」を重ね、それを効果的に発信する。 |

- (1) 広報が効果的に行われたか。
 (2) 地域からの要請にどう応え、それをさらにどのように発展させることができたか。

反省並びに来年度へ向けて

地域連携活動は限定的なものとなってしまった。
 ただ、その中においても、「総合的な探究の時間」などで、企業との連携や地域団体の連携も行われ、一定程度の活動はできた。
 本校の一番のアピールポイントは生徒である。その生徒たちが、地域の皆様との活動の中で、また多くのことを学び成長していった欲しい。また、その姿を見ていただくことで、本校の良さを地域の方々に理解していただきたい。その双方のために、来年度はより積極的な地域連携を図りたい。

| | |
|--------|-------------------------|
| 【重点方針】 | 6. PTA・同窓会との協力 |
| 【事業目標】 | PTA・同窓会と協力し、学校運営を活発化する。 |
| 【評価指標】 | PTA・同窓会が積極的に学校運営に参加したか。 |

| 施策名 | 内 容 | 関連部局 (担当部局) |
|------------------------|---|----------------|
| PTAと連携 PTAからの理解と協力 | ①PTA活動のあり方を再検討する。(学校行事・講演会・公開授業・PTA研修など) (評価指標) PTAの積極的な参加があったか。本校の教育活動に理解と協力が得られたか。 | 管理職 PTA |
| 同窓会との連携 同窓会からの理解と協力 | ①同窓会活動に対して、同窓生の積極的な参加を促す。 (評価指標) 同窓生が本校の教育活動に興味を示し、同窓会活動や募集活動に協力的になったか。 | 同窓会 |

今年度の重点項目および留意点

1. PTA・同窓会の発信力を高める。
 (1) 活動内容や活動の重要性を周知できたか。
2. PTA・同窓会の本校に対する意見や希望を吸い上げ、学校発展の手がかりとする。
 (1) 「保護者アンケート」を効果的に実施し、検証できたか。
 (2) 同窓会の出席者を増やし、同窓生の声を聞くことができたか。
 (3) 諸活動を従前のあり方に近づけ、相互の連携を深めることができたか。

反省並びに来年度へ向けて

PTA活動については、今年度もほとんど行うことができないような状況であった。PTA活動を通じて、教職員と保護者の皆さまが時間と場所を共有することで、相互理解を深められることが多い。来年度は、従前の通りの活動に戻したい。
 また、保護者アンケートを実施することができなかった。大切な要素であるので、来年度は是非実施したい。

| | |
|--------|--------------------------|
| 【重点方針】 | 7. 進路支援の強化・充実 |
| 【事業目標】 | 100%の進路保証 |
| 【評価指標】 | 卒業生の100%が進学・就職先を決めて卒業する。 |

| 施策名 | 内 容 | 関連部局 |
|----------------|---|------------------|
| 進路の多様性の 周知 | ①進路ガイダンスを適切に実施し、多様な進路があることを周知させる。 (評価指標) 生徒の進路志望と進路状況に合ったガイダンスであるか。 | 進路指導 |
| | ②体験入学やインターンシップなどを通じ、適性を見極めをするとともに、努力目標を設定させる。 (評価指標) 進学希望者が複数校の体験入学に参加できたか。就職希望者がインターンシップに参加し企業から良好な評価がいただけたか。 | 進路指導 学年会 |
| ポートフォリオの 作成 | ①ポートフォリオのシステムを構築するとともに、生徒自らがその充実を図れるように支援する。 (評価指標) 平成30年中にeポートフォリオのシステムを構築する。 | 学習 進路指導 教務 |
| 高大連携授業の 推進 | ①姉妹校ならびに関連学校を中心とした高大連携授業を推進し、建学の精神を体現するとともに、広く学問に触れる機会とする。 (評価指標) 参加した生徒が何を学び自己の進路にどう役立てたか。 | 学習 |
| | ②高度な学習機会を得ることで、向学心を刺激し、自己研鑽の必要性を認識させる。 (評価指標) 参加した生徒が何を学び自己の進路にどう役立てたか。 | 学習 |
| 大学進学実績の 向上 | ①大学入学者選抜改革に対応したカリキュラムの構成を行い、一般入試における生徒の受験力向上に努める。 (評価指標) 令和2年度までに新カリキュラムを作成する。進学希望者の90%以上が第1志望の学校に合格できる。 | 進路指導 教育課程 |
| | ②基礎学力を強化し、AO入試、推薦入試における生徒の学力向上に努める。 (評価指標) 平成31年度より「基礎学力試験」を実施し、生徒の学力の実態を把握するとともに、どれだけ成績を向上させられたか。 | 進路指導 |
| 就職支援の充実 | ①地元産業または地元企業に対する理解を深め、適切な進路選択ができるように支援する。 (評価指標) 就職希望者の100%が就職できる。 | 進路指導 |

今年度の主なる留意点

1. 生徒・保護者に対して、適切かつ効果的な進路指導を行う。
 - (1) ガイダンスが生徒・保護者にとって効果的に行われたか。
2. 新入試制度に対応したカリキュラムを構築する。
 - (1) 本校の実態に照らしながら、本校を方向性を示せるカリキュラムが構築できたか。
 - (2) 新しいカリキュラムが、本校の実態に合い、かつ、効果的なものであったか。
3. 生徒の希望に添った進路を提供する。
 - (1) 進路の多様性を示すことができたか。
 - (2) 当該生徒に適した進路の情報を提供できたか。
 - (3) 生徒の進路実現が図れたか。
4. 新学習指導要領に基づくカリキュラムを編成する。
 - (1) 本校の実情に合ったカリキュラムが編成できたか。
 - (2) 新しい形式のシラバスに基づき、授業を展開し、新しい評価方法に対応できたか。

5. 探学的な学習の時間の構築と実施

(1) 目標にあった取り組みができ、それによって生徒の成長が見られたか。

反省並びに来年度へ向けて

公立大学、難関私立大学を含め、進学希望者はそのほとんどが志望に応じた進路実現ができた。また、就職においても、就職希望者全員が内定をいただくことができ、進路指導は評価できる。

進路ガイダンスやキャリア教育といった進路指導も概ね効果的に実行できたように考えているが、時期や方法については、教員からもいくつかの意見や要望をもらっている。今後の検討事項としたい。

また、進路指導をしていく中で、担任と生徒本人、また、対保護者で、円滑な相談ができていないという場面も散見した。これまで以上に丁寧な対応が求められているということだろう。

入試方法の変化もめまぐるしい中、また、学部学科が多様化する中、教員が新たに学ばなければならないことも多い。常にアンテナを張り、情報を的確に捉えながら、生徒ひとり一人の実情を見据えた上での指導がより大切になってきていることを注意したい。